

寸言

富士通株式会社
テクニカルコンピューティング・
ソリューション事業本部長
國澤 有通



共働・共創による未来社会への貢献

「未来」と聞いてみなさんはどんなイメージを持たれるでしょうか。私は、きまって『2001年宇宙の旅』を思い出します。

1968年に公開されたSF映画であり、名作の1つ。宇宙飛行の描写、室内空間の斬新さ、映像美、音楽等、初めて見たときの衝撃は色あせず、今もなお刺激を与えてくれる作品です。特に宇宙船を制御するHAL9000という人工知能が、乗務員と会話を交わし、感情を持ち、そして苦悩する様まで描かれている点は、今まさに私たちが面している技術の発展と人間との関係に重なる部分があります。

私たちのミッションは、人工知能(AI)、ビッグデータ解析、スパコン等のデジタル技術で、科学技術分野のお客様の先端研究を支え、さらにその成果を社会に展開することで、豊かな未来を築いていくことです。

そのために大切なのは、「どのような未来にしたいか」それを描く力だと思います。2001年宇宙の旅が与えてくれた世界観同様、激しい時代変化の中で、私達の生活をどう豊かにしていきたいのか、これを考え続けることが科学の発展への貢献に欠かせない要素だと考えています。

そして、お客様やパートナーとともにいくつかのチャレンジを始めています。

1つめは、「県民衛星プロジェクト」です。福井県が自治体初の衛星打上げ、データ活用、製造の拠点化を図ることで、「行政課題の解決、県民生活の更なる向上（幸福度日本

一）」を目指すものです。当社は、福井県、地場企業の方々と共働し、宇宙のアセットを活用した新しい価値循環のエコシステムの創出に挑んでいます。

2つめは、「都市課題の解決プロジェクト」です。大都市で発生している混雑や渋滞の社会課題の解決を目指すもので、交通機関の状況、個人の嗜好性などの大量かつ複雑なデータをAIが学習・予測し、その結果から最適な行動をするための交通手段を勧めたり、誘導する実証実験を行い、実用化を目指しています。

3つめは、「SFそのものを創ってしまうプロジェクト」です。他業界の方々と一緒に、未来に生きる人「未来人」について対話とフィールドワークし、未来人の生活を描いたSF小説創りに挑戦しました。そのプロセスを通して、未来社会のあり方、自分たちの役割、今からできること等を共創しました。これからも柔軟に未来を語り合うツールとして育てていきたいと考えています。

このように、デジタル技術を通してさまざまな方と一緒に未来づくりに挑戦できるのが私たちの強みだと考えています。デジタル革新はもちろんのこと、これからもお客様との共働・共創によって未来のサービスやビジネス創出、豊かな未来社会に貢献していきたいと思っています。